

第3回五泉市総合計画市民まちづくり会議 [結果報告]

開催日: 令和7年11月11日(火)

◆『特定分野提案シートの作成』

[作業内容] 現行計画の50施策の中から各委員が専門分野や興味ある分野を選定し、次期計画に対する提案を行う

NO	施策名	提案内容
4	生涯スポーツの推進	<p>少子化によるスポーツ人口減少に対応した施設づくりを将来目標とし、スポーツの多様化に対応する指導者育成を強化する。</p> <p>「部活動の地域移行」が文科省からスポーツ庁、県、市町村へと進んでおり、五泉市でも議論中。</p> <p>箱物偏重では対応できないため、運営や活用まで含めて施設の在り方を検討し、今後も提案していく。</p>
5	芸術文化活動の推進	<p>五泉市の文化財や美術品の鑑賞・体験を目的に観光客が激増する未来を目指す。</p> <p>既存の文化財資料の見直し、情報発信の強化（市民と市が連携）が必要で、資料館やラポルテでの文化発信も弱いと感じる。十日町の道の駅隣接の文化財展示施設の例を参考に、施設の再検討や廃校活用も一案。「この市は何もない」という意識を改め、足元の宝を再発見し各自が発信することが重要。観光客増は税収増と課題解決に資する。</p> <p>美術館ができたことで、労働者のまちから文化のまちへ生まれ変わったスペインのビルバオの例も参考に、提携や市の美術施設の再考で人を呼び込みたい。</p>
7	文化財の保護と利活用	<p>吉田家住宅の保存・活用を拠点に市街地活性化を図ることを目標とする。</p> <p>現在、活動プロジェクト実行委員会が保存活動を始動し、五泉まちなか応援団の登録や情報発信を通じて市民との連携を進めているが、課題も多く足踏み状態との話を聞く。仮に市に寄贈された場合は改修・インフラ・周辺整備、耐震補強など多額の費用が必要。一方で、地域のシンボルとして教育・観光資源となり、国の登録有形文化財の要件も満たすため登録は見込める。魅力を生かせば観光拠点化やイベント連携による相乗効果が期待できる。</p> <p>参考として、長岡市撰田屋地区、新発田市の蔵春閣、阿賀野市の五十嵐邸ガーデン、小千谷市の西脇家住宅など、各地で歴史的建造物を生かした事例がある。五泉市では羽下の伊藤家住宅、坂田家住宅が登録有形文化財となっているが、市街地から離れており活用が難しい。その点、吉田家住宅は市の中心にあるため、活用の意義が大きいと考える。</p>
	福祉施策全般	<p>10年後の目標は、包括的かつ総合的な支援体制の構築による地域共生社会の実現。子ども・障がい者・高齢者の施策は重要度が高い一方で満足度が低く、分野横断の包括的支援を展開すべきだ。</p> <p>現状は県内20市のうち地域福祉計画の未策定は五泉市と加茂市の2市のみで、重層的支援体制整備実施計画を含む地域福祉計画の策定を進める必要があると提案する。</p>
8	高齢者の生きがい創出と生活支援の充実	<p>多くの人がボランティアやスポーツ大会に参加する老人クラブを目指す。</p> <p>現状は役員のなり手がなくクラブが消滅する例があり、会員も五泉市で約220名だが年々減少している。スポーツや研修旅行への参加を広げ、会員募集を進めて健康づくりを促したい。</p>
9	障がいのある人の自立と社会参加への支援	<p>満足度は低いが高重要度は高い分野との認識を踏まえ、10年後の目標は障がい児・障がい者とその家族のウェルビーイングの実現。健康、生きがい、良好な人間関係を支える要因として、住まい、就労、意思決定、医療などが重要である。</p> <p>現状はニーズの多様化でウェルフェアサービスのパーソナライズ化が進む一方、人材不足が大きな課題。多様なステークホルダーによる共創と他業種連携を進め、ボランティア支援団体やNPOなどインフォーマルな社会資源の創出・育成・支援を進める。</p> <p>市民アンケートでは過去1年のボランティア活動歴なしが約70%で、活動の底上げが必要。サロンやWebコミュニティの活用も期待する。人口が増えなくても活動する人の割合が増えれば地域の活気は増し、人口の安定化につながると考える。コミュニティを一つの枠として考えた上でのウェルビーイングの視点が大事。</p>

NO	施策名	提案内容
12	子育て支援の充実	<p>母親たちは疲弊し孤独や不安を抱え、相談先に頼れず頑張り続けていると感じる。 若い世代に男女とも「子どもはいない」という考えが広がっていることも懸念。 必要なのは支援体制の充実に加え、その存在を確実に伝え、「頼ってよい・休んでよい」を周知すること。罪悪感なく支援を活用できれば自己肯定感が高まり、子育てを楽しめるはずだ。 参考として、三条市の父母共同での子育て講座や江南区の子ども服・雑貨の無料交換マーケットの取り組みがある。</p> <p>安心して子どもを産み育てられる環境の実現を目標とする。 五泉市の出生率は令和5年度で1.18と低く、目標達成が困難な状況が続くため、より具体的な施策が必要。保育料や医療費、共働き世帯の未満児保育、子どもの遊び場の拡充などに対する不安や要望がある。 財源確保にはふるさと納税の活用を拡充すべきで、都城市（第一子から保育料無料、ふるさと納税を財源）や北海道上士幌町の事例を参考にしたい。</p>
21	安全・安心な水の供給	<p>五泉市の地下水を活用した最小限消毒の「美味しい水」を市外・県外に認識してもらうことを目標とする。 市外では飲む・使う機会がなく良さが伝わらない。五泉の水で調理した食材のアピールや、ラポルテ五泉などでの水道水イベントを強化する。上下水道局が3年前から年数回実施しているイベントを拡充し、パンフレット、ホームページ、SNSで環境負荷や観光客の声も活かしてPRしていく。</p>
28	国際化に向けた環境づくり	<p>外国人労働者や技能実習生が生き生き過ごせる環境を目指し、早出川などで多国籍の人が一緒に川遊びを楽しめる未来を描く。 国際交流協会に所属していても、外国人との接点は主にALTに限られ、街中で外国人をあまり見かけない。イングリッシュキャンプや「世界の料理を食べてみよう」などはあるものの、ALTや地域おこし協力隊に偏っている。ALT以外にも含め多様な国の人とつながり、世界の食をはじめ交流企画を広げるきっかけにしたい。</p> <p>国際化に関する施策の充実を望む。 新発田市では地域おこし協力隊の主催で、様々な出身国の参加者が持ち寄った各国の料理を食べながら交流する「ポットラックパーティー」を4回開催し、市外からの参加も多い実績がある。また同市で開校した自主夜間中学校には技能実習生や留学生が通い、形を変えた国際交流の場になっている。官だけでなく民間の力が重要で、民間中心の取組を期待する。</p>
32	農業の担い手育成と安定した経営の支援	<p>目標は担い手への農地集積率80%（現状は令和2年で51%）と、担い手農業者の所得を公務員並みにすること。 昨年までの生産者米価では採算がギリギリ。アンケートでは「25 労働環境の整備」「26 農業の振興」が満足度低・重要度高。先進的法人が新潟県の農業経営・就農支援センターを活用し、県・市・JAに加え司法書士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、経営コンサルタントなどの総合的指導で模範経営を示す。 市の試算や補助（ソフトを含む）で担い手を支援してほしい。他県には農業経営就農支援センターの優良事例が多いが、新潟県内は近年事例が少なく、組織が十分動けていない印象のため強化を望む。</p>
33	農地と農村の環境整備	<p>生産基盤整備の進展と耕作放棄地ゼロを目標とする。 農家向けの説明が進まず理解が不足し、現状では手を挙げてもその地域で整備完了まで15〜20年かかる。県などに働きかけて加速しないと耕作放棄地が増え、小さい田んぼは手間とコストが重み、耕作継続が難しくなる。</p>

NO	施策名	提案内容
	農業政策全般	<p>基幹的農業従事者の減少と高齢化が進み、省力化・スマート農業の導入が急務と考える。五泉市での農業のデジタル化について本格的な動きは聞こえてこない。ドローンや自動水管理の省力効果は実証されており、取り組みがあれば協力したい。農地の集約は合意形成が難しいが避けられず、米どころは農業生産額が低位にあり複合化が必要。民間企業が実施する「アグリイノベーション大学校」のような仕組みと協力し、新規就農者を呼び込む可能性もある。</p> <p>五泉は水がきれいで、ラポルテ五泉で改良メダカ販売を見かけ、村松に以前あったサケマス養魚場からも五泉と魚のゆかりを感じる。改良メダカの愛好家を呼び寄せる等、五泉の水環境を生かして人を集める環境づくりに可能性を感じる。</p>
29 ～ 34	「活気の泉」全体	<p>商工業などで、その時々の人々にわかりやすく浸透するPR ともものづくりが重要。</p> <p>事業を作ることが先行し、「どう伝える・どう売るか」「利用者がどう良くなるか」の設計が後回しになりがち。まず利用者の立場に立ち、望ましい姿を定め、その後にPR や販売、プロセス設計を行い、最後に自分たちが提供できる内容へ落とし込むという順序で政策を考えるべき。</p>
35	地域資源を活かした観光と都市交流	<p>目標は交流人口の増加による経済効果の拡大。</p> <p>ラポルテ五泉以外に強い観光資源が少なく、入込はラポルテ五泉 38 万、さくらんど温泉 9.8 万、花木祭 7.2 万、村松公園の桜まつり 2.6 万。</p> <p>国道 403 号からのアクセス道路未整備が致命的。対応としてラポルテ五泉の集客拡大と、新資源造成を進めたい。</p> <p>令和 4 年から 5 年にかけて、道の駅国上は 26 万→48 万、道の駅阿賀野は 36 万→66 万と 2 倍近く入込客数が伸びており、県内の限られた観光資源を活用していく必要がある。</p> <p>市民が自分の地域の魅力を自ら発信する未来が望ましい。</p> <p>外から見れば魅力的な資源に市民が気づいていない可能性があり、若者が行政や観光協会にインフルエンサー役を求める一方、若者自身が発信者になる手段もある。市民発信の機運が乏しいと感じ、まず機運醸成に取り組むべきだ。</p> <p>県の観光計画でもインナーブランディング向上を掲げており、五泉市と連携して進めたい。</p> <p>地元産業の活性化と交流人口増、移住促進を目標とし、来訪手段のない人を拾うため周遊バスを提案する。</p> <p>新潟市からラポルテや商店に単独来訪する人はいるが、アクセスの悪さをバスで補う。大人の修学旅行として「ラウンド五泉」のような名称で、新潟・長岡・東京発を想定し、ニット・シルク工場見学、チューリップ摘み取り、さくらんど温泉などのコースや、子ども向けにラポルテと里芋掘りなどの組合せを考える。</p> <p>東京の方が新潟発のバスがなくなったためにカーブドッチに行かなくなったという声も参考になる。</p> <p>目的地にならないと人は集まらないため、五泉に新しい観光コンテンツをはっきり一つ作ることで、賑わい創出と交流人口増加に繋げる。</p> <p>五泉はガンダムにゆかりがあり、2025 年 4 月放映の「ガンダムジークアクス」で鶴巻和哉監督（五泉出身）が大蒲原やエスマートなどの地名を入れ、主人公がニット帽をかぶっている。ガンダムの始祖である富野由悠季監督を盛り立てた小田原市を参考に、鶴巻監督を盛り立てる「アニメ聖地化プロジェクト」で人を惹きつけたい。試算として、年間 5 万人が 1 人 8,000 円消費し、波及効果係数 1.3 なら約 5 億円の経済効果が見込める。</p>
37	地域の魅力を活かした定住と移住の促進	<p>人口が増加し不自由なく暮らせるまちづくりを目標とする。</p> <p>少子化で子どもが少ない現状では、他市町村からの移住者増や空き家活用が鍵だが、全国で同様の取り組みが進む中、五泉市独自の手厚い補助金が重要だと考える。既にウェルカムファミリー住まい事業などがあるため、その実行と継続が大切で、リフォームや解体補助など住宅関連の支援も厚くしてほしい。物価上昇で負担が重い中、市の補助金は住民の頼みの綱であり、他市にない支援で補っていただきたい。</p>

NO	施策名	提案内容
38	ごみの減量化とリサイクルの推進	<p>剪定枝・刈り草の再資源化施設を市が整備し、肥料化して市民に無料配布することを目標とする。</p> <p>現状、剪定枝はクリーンセンターで焼却され、CO2 排出と資源価値ゼロに加え、今年4月以降の指定袋制導入で庭を持つ世帯の負担も増えている。市長も5つの政策として挙げているSDGsの姿勢をさらに明確化し、廃棄物処理法上の中間処理施設への補助金や森林環境譲与税を活用して整備を進めたい。</p> <p>埼玉県内の広域事務組合や、三条市の堆肥化事業、燕市の類似事業を参考に、導入をお願いしたい。</p>
40 42	安全で快適な道路の整備 快適な住環境の整備	<p>若者と高齢者が共生する活気あるまちを目指すには、人口減少下で人口をいかに維持・増加させるかが肝心。</p> <p>新潟市など近隣へのアクセス道路の不足と働く場の不足が課題。対策はアクセス道路整備、工業団地整備による企業誘致、大学誘致。</p> <p>参考として山形県鶴岡市のサイエンスパーク（慶應義塾大学誘致、行政・大学・企業・市民の連携）を挙げ、五泉市でも若者と連携し特色ある取り組みで活気あるまちづくりを進めたい。</p>